

和歌山市文化表彰式

と き 令和5年(2023年)11月20日(月) 午後2時から

ところ 和歌山城ホール 大会議室

開 会

国歌斉唱

市歌斉唱

主催者あいさつ

功績紹介

表彰状授与

各章贈呈

祝 辞

来賓紹介

選考委員会委員紹介

昨年度までの受賞者紹介

受賞者代表あいさつ

祝典曲演奏

閉 会



ごあいさつ

和歌山市長 尾花正啓

今日の佳き日に令和5年度和歌山市文化表彰式を開催できましたことは、欣快の至りでございます。昭和57年に本市の文化の向上・発展に顕著な功績のある方を称えることを目的として創設されました本表彰も、今年度で42回目を迎えることができました。本年度受賞されます皆様方には、その輝かしい栄誉を心からお祝い申し上げます。

皆様方は、それぞれの分野において、たゆまぬ努力と精進を重ねられた結果、本市はもとより我が国の文化の向上・発展に多大なる功績を残された方々でございます。その輝かしい功績の数々は、本市の誇りであり、皆様方のあふれる英知と不断の研鑽に対し深く敬意を表する次第です。

ここ数年来、世界的な感染症の流行により文化芸術活動が制限を受ける中、未来の本市文化行政において大きな転機となる、和歌山城ホールの落成、紀の国わかやま文化祭2021の開催、有吉佐和子記念館の開館など、次世代へとつながる新たな文化の花が開きました。私たちは、この花が永く咲き誇るよう文化振興の機運を高めるとともに、これまで先人により脈々と受け継がれてきた、かけがえのない本市の文化芸術の財産を郷土の誇りとして、引き続きその発展と継承に努めてまいりますので、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この記念すべき日にあたり、表彰の栄に浴されました皆様方並びに関係者の皆様方のご健勝・ご多幸を祈念いたしましてごあいさつといたします。

令和5年度

文化賞 文化功勞賞 文化奨励賞受賞者

文化賞



氏名 みむら まさひろ 味村 正弘
現住所 和歌山市
出身地 和歌山県日高郡日高川町
生年 昭和27年

食文化（フランス料理）

業績及び経歴

10代半ばで料理の道に進み、大阪や広島など各地で研鑽を積んだ後、和歌山市内のホテルの総料理長を経て、平成6年に独立する。

その間、昭和60年の「食博覧会・大阪」における金賞と特別賞の受賞をはじめ、昭和63年にドイツで開催された世界司厨士協会連盟が主催する「世界料理オリンピック」で金メダルを、平成2年にはルクセンブルクで開催された「料理ワールドカップ」で日本チームとして銅メダルを受賞するなど、国際的な料理の祭典で優秀な成績を収める。

また、調理師としての卓越した技能と功績が認められたことにより、平成18年に和歌山県から「きのくに技能奨励賞」を、令和3年に厚生労働省から「卓越した技能者（現代の名工）」の表彰を受けており、本市においても、長年にわたる活動が評価され、平成27年に「和歌山市文化功労賞」を受賞している。

伝統的なフランス料理を大切にしつつも新たな味を求めて料理の腕を磨く一方、食文化の継承と後進の育成にも力を注いでおり、公益財団法人和歌山県生活衛生営業指導センターが「後継者育成支援事業」の一環として実施する「職場体験学習」に協力し、県内の中・高校生に仕事の意義や将来の進路を考える場を提供するとともに、和歌山県調理師会会長として、和歌山県の食育推進事業の一環である、「キッズシェフ体験」や「わかやまジビエ出前授業」を通して、県下の児童・生徒に対して調理技術の習得と地域の農業や農産物への理解を深め、感謝の心を育む活動を続けている。

また、令和3年に和歌山県中小企業団体中央会・日本調理師会と協力し、地震などの大規模災害発生時の食材や食事の提供に関する協定を和歌山県と締結し、避難所生活が長期化する場合に同会会員を派遣し、温かい食事を提供することで、避難者を支援するための体制づくりを整えるなど、社会貢献活動にも尽力しており、その数々の実績や功績は比類がなく、本市の食文化の振興・発展への貢献は多大である。

現 在

一般社団法人和歌山県調理師会会長

主な受賞

昭和60年	食博覧会・大阪	金賞・特別賞
同63年	世界料理オリンピック	金メダル
	紀州生き生き料理展	知事賞
平成2年	料理ワールドカップ	団体銅メダル
同13年	食博覧会・大阪	当日グランプリ
同16年	世界料理オリンピック	銀メダル
同18年	平成17年度きのくに技能奨励賞	
同23年	調理師関係功労者厚生労働大臣表彰	
同27年	平成27年度和歌山市文化功労賞	
令和3年	卓越した技能者（現代の名工）厚生労働大臣表彰	

文化功労賞



氏名 江田 司
現住所 和歌山市
出身地 和歌山市
生年 昭和28年

指揮者

業績及び経歴

和歌山大学教育学部卒業、大阪教育大学大学院（作曲・指揮法講座）修了。

昭和49年の和歌山市交響楽団の創団の際にチェリストとして参加し、翌年から指揮を兼任する。

指揮者としては、古典派から近・現代の作品まで幅広いレパートリーを持ち、交響曲、管弦楽曲、協奏曲などの器楽曲はもとより、ヘンデルの「メサイア」、デュリュフレの「レクイエム」などの宗教曲やモーツァルトの「魔笛」、團伊玖磨の「夕鶴」などのオペラ、また、チャイコフスキーの三大バレエなど、オペラ・バレエ作品の上演においても練達の指揮を披露し、これまでに数々の著名なソリストと協演した実績を有する。

指揮者としての活動に加え、文部科学省国立教育政策研究所の「特定の課題に関する調査（小学校音楽）」における調査・分析委員会委員に平成19年から同22年まで従事するほか、小学校の音楽専科の教員として36年間勤務し、和歌山大学教育学部では非常勤講師として、名古屋学院大学では「こどもスポーツ教育学科」の教授として音楽教育に携わる。また、小学校教員として培ってきた知見を生かし、年間約400万人の小学生が使用する音楽教科書である『小学生の音楽1～6年』の執筆者のひとりとして名を連ねている。

さらに、本市が毎年こどもの日に実施する「和歌山音楽大行進」の実行委員・実行委員長として、昭和54年から平成20年まで、同事業を長きにわたり牽引し、音楽を通して情操豊かな子どもたちの育成に努めるなど、指揮者としての数々の実績や活動はもとより、長年にわたり、音楽教育を通して本市の音楽文化の振興・発展に尽力してきた功績は多大なものである。

現 在

和歌山市交響楽団音楽監督・常任指揮者
和歌山市民オペラ協会常任指揮者
関西医科学学生交響楽団指揮者
公益社団法人日本演奏家連盟会員（指揮）
和歌山文化協会会員
一般財団法人紀陽文化財団評議員
日本音楽教育学会会員

主な受賞

平成 5 年 平成 4 年度和歌山県教育研究奨励賞

文化功労賞



氏名 みずしま たいじ 水島 大二
現住所 和歌山市
出身地 和歌山県海南市
生年 昭和22年

城郭研究

業績及び経歴

中学生の頃に「城」に関心を持ち、大東文化大学文学部に進学後、学術研究と文化交流の団体として創設された「日本城郭協会」と「日本城郭協会学生研究会」に籍を置いて本格的に城郭研究を始めるとともに、現在も委員を務める「日本城郭史学会」の前身である「日本城郭資料館」の立上げにも参加する。

大学在学中は、東京の都心や近郊の城跡を訪ね歩いて見識を深め、卒業後は、県立の高等学校教諭として教壇に立つ傍ら、県下に点在する中世城館跡を隈なく調査し、その成果は「城郭史に関する調査研究」として実を結び、昭和58年に和歌山県教育委員会から「和歌山県高等学校教育研究奨励賞」の表彰を受けている。

平成元年には、「和歌山城郭調査研究会」を立ち上げ、県下の中・近世の城郭跡や幕末の台場跡、戦中遺構の調査研究を進める活動を行うとともに、本市と連携し、平成4年から3年をかけ、和歌山城の石垣の刻印を調査し、約140種2,000個余りの刻印の存在を確認した。

平成19年に教職を退いた後も、城郭についての調査と紹介を精力的に行っており、平成25年から2年間、ぶらくり丁商店街のまちなか交流スペース「みんなの学校」にて、「城好き大集合！～水島大二先生と学ぶ和歌山城・日本の城～」と題して、城の基礎知識から歴史・構造をわかりやすく解説する講座を開催する。また、同27年から現在まで「和歌山城で学ぶお城教室」の講師として、和歌山城に残る往時の職人たちの技術や歴史を伝えるために、参加者と一緒に城内を巡る取組みを続けている。

城郭の調査・研究で優れた実績を有するとともに、卓越した見識と豊富な知識を基に、市のシンボルである和歌山城の魅力について、愛好家はもとより初心者にも広くわかりやすく伝えるなど、本市の文化振興に大きく貢献している。

現 在

日本城郭史学会委員
和歌山城郭調査研究会顧問
和歌山地方史研究会会員

主な受賞

昭和58年 和歌山県高等学校教育研究奨励賞
平成8年 和歌山県文化財研究会表彰
御坊市文化財研究会表彰

主な著書

昭和53年 探訪ブックス城・近畿の城（共著）
同55年 日本城郭大系10 和歌山県（共著）
平成7年 定本和歌山県の城（監修・執筆）
同16年 名城を歩く15 和歌山城（共著）
同30年 図説日本の城郭シリーズ8 和歌山の近世城郭と台場
令和2年 ふるさと和歌山城

文化奨励賞



氏名 久保 美雪
現住所 和歌山市
出身地 和歌山市
生年 昭和48年

声楽家

業績及び経歴

高校1年生の時に声楽の道を志し、大阪音楽大学に進学する。

平成8年に和歌山県主催の新進演奏家のお披露目コンサートである和歌山県新人演奏会において、事前オーディション出演者の中で最高点を獲得し、演奏会への出演を果たした。その後は、同21年、同24年、令和元年にソロリサイタルを開催するとともに、モーツァルト室内管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、テレマン室内オーケストラ、和歌山市交響楽団など、国内の名高いオーケストラと共演を重ねている。

オペラとの出会いは、平成7年に和歌山市民オペラ協会第1回定期公演の「おこんじょうるり」に初めて参加した時で、同9年の第3回定期公演である有吉佐和子の作品をオペラにした「藤戸の浦」以来、毎年同協会の公演に携わっており、令和3年の「紀の国わかやま文化祭2021」では、同協会が「第20回佐川吉男音楽賞」を県内の団体で初めて受賞することとなったオペラ作品「稲むらの火の物語－梧陵と海舟」で梧陵の妻の「まつ」を演じている。

加えて、同協会が主催する公演のほか、平成10年に大分県で開催された国民文化祭をはじめ、各地で開催されるオペラやコンサートの公演にもソリストとして数多く出演している。

また、文化芸術の普及にも取り組み、文化庁による子供育成推進事業の一環である「芸術家の派遣事業」の参加アーティストとして、平成19年から県内の小・中学校で公演を重ねるほか、和歌山県文化振興財団による「おでかけコンサート」において、県内の幼稚園・保育園・小学校にて公演を実施し、児童・生徒に質の高い芸術を鑑賞・体験する機会を提供するなど、声楽家として数々の実績を重ねるとともに、次世代を担う子どもたちへ声楽の魅力を伝え、本市の文化芸術の発展に資する活動を続けており、今後も更なる活躍が期待される。

現 在

和歌山市民オペラ協会会員

和歌山文化協会会員

公益社団法人日本演奏家連盟会員

公益社団法人関西二期会準会員

和歌山リビングカルチャー倶楽部講師

和歌山アーティストバンクソロアーティスト

主な受賞

平成2年 和歌山音楽コンクール 声楽・高校生の部 第2位

同9年 イタリア声楽コンクール 入選

同21年 和歌山音楽コンクール 声楽・一般の部 第2位

同22年 宝塚ベガ音楽コンクール 会場審査員特別賞

大阪国際音楽コンクール 第2位

令和4年 令和4年度和歌山文化協会奨励賞

文化奨励賞



団体名 わかやましみんな 和歌山市民オペラ協会 きょうかい
創 立 平成5年
代 表 多田 佳子
所 在 地 和歌山市

舞台芸術

業績及び経歴

平成5年に「和歌山ふるさとオペラ」として発足。翌年、団体名を「和歌山ふるさとオペラ実行委員会」として本格的に活動を開始し、平成9年に現在の団体名である「和歌山市民オペラ協会」に改称する。

平成7年の第1回定期公演を皮切りに、今年の協会創立30周年記念公演である「清姫－渡し場の段－」まで、26回に及ぶ定期公演を重ねて、本市における舞台芸術を牽引し続けている。

これまでの演目も多彩であり、「魔笛」のような古典派から「ヘンゼルとグレーテル」などの近・現代に至る馴染みのあるオペラ・オペレッタのほか、平家物語を題材とする有吉佐和子の浄瑠璃が原作の「藤戸の浦」など、日本の古典を種本とする作品や和歌山にこだわった作品を数多く手がけており、令和3年に開催された「紀の国わかやま文化祭2021」では、新作オペラ「稲むらの火の物語－梧陵と海舟」を初演し、同作は、音楽評論家として長年活躍した、故佐川吉男氏の名を冠した「第20回佐川吉男音楽賞」を、県内の団体として初めて受賞した。

また、平成19年に、看護に対する理解を深め、その重要性についての普及啓発を目的とした厚生労働省の「看護フォーラム」において「オペラ・ガラ・コンサート」を開催するほか、音楽文化を次世代へ継承するための取組みとして、子どもたちにオペラ制作の一部始終を体験してもらうためのワークショップや声楽の基礎・発声法を学ぶ講座を開催するなど、長年にわたり、オペラを通じた社会貢献や後進の育成に努め、本市の舞台芸術文化並びに音楽文化の振興と普及に尽力している。

主な受賞

令和4年 第20回佐川吉男賞

主な公演演目 ※括弧内は作曲者

おこんじょうるり (林 光)
清姫 - 渡し場の段 - (野々垣 恵信)
藤戸の浦 (尾上 和彦)
ヘンゼルとグレーテル (フンパーディンク)
日韓文化交流オペラ・ガラ・コンサート
虎月傳 (田中 均)
アマールと夜の訪問者 (メノッティ)
サンドリヨン (マスネ)
VIVA MOZART! VIVA MUSICAL!
100年残しておきたいあなたの愛唱歌
アルカンタラの医者 (アイヒベルク)
末摘花 (寺嶋 陸也)
魔笛 (モーツァルト)
夕鶴 (團 伊玖磨)
泥棒とオールドミス (メノッティ)
稲むらの火の物語 - 梧陵と海舟 (山下 祐加)

昨年度までの受賞者一覧表

〈昭和57年度〉

文化賞	杉本 謙 (ヘンリー杉本)	洋画家
文化功労賞	清水 達三	日本画家
文化奨励賞	岡田 昭子 (杉谷 昭子)	ピアニスト
	澤 和樹	ヴァイオリニスト

〈昭和58年度〉

文化賞	森 蘊	庭園研究家
文化功労賞	木下美代子	文学者
	山本 恵子 (真舟)	書道家
文化奨励賞	松井 彬	能楽師 (喜多流)

〈昭和59年度〉

文化賞	藤岡 通夫	東京工業大学・日本工業大学名誉教授
文化功労賞	清水喜代子 (吉村雄輝代)	日本舞踊家
	亀 勝人 (忠男)	写真家
文化奨励賞	杉原真理子	声楽家

〈昭和60年度〉

文化賞	樋口 隆康	京都大学名誉教授・泉屋博古館長
文化功労賞	浜 光治	医師 (文化団体代表)
	本谷 惣山	邦楽家
文化奨励賞	宇治田敏昭	劇団主宰

〈昭和61年度〉

文化賞	福島 ひさ (竹本 住友)	女流義太夫
文化功労賞	北原 雄一	作曲家
文化奨励賞	和歌山児童合唱団	

〈昭和62年度〉

文化賞	中村 善種	洋画家
文化功労賞	和歌山文化協会	

〈昭和63年度〉

文化功労賞	寺中 靖直	洋画家
	中沼 洋子	バレエ
文化奨励賞	和歌山市民合唱団	

〈平成元年度〉

文化賞	寺口秀太郎 (関山)	日本画家
文化功労賞	山本 秀臣	洋画家
	荊木 淳己	郷土文学研究家
文化奨励賞	岡崎由美子	洋画家

〈平成2年度〉

文化賞
文化功労賞

中西 久夫 (神坂 次郎)
伊藤 孝文
大谷 滢 (煌洲)
金崎二三子

作家
郷土文学家
吟詠家
舞踊家

〈平成3年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

大岡 繁 (皓崖)
宇治田正子
岡田 脩 (脩克)
中沼 利花

書道家
能楽師
華道家
洋舞家

〈平成4年度〉

文化賞
文化功労賞

橘 喜久雄
和中 光次
高野 澄子
西田 隆 (杵屋勘寿郎)

洋画家
歯科医師 (文化団体代表)
創作刺繍作家
三味線奏者

〈平成5年度〉

文化賞
文化功労賞

稲垣 耕 (伯堂)
南垣内文平 (泰甫)
小橋 幸子 (藤間蔦喜久)
田川 寿美

日本画家
華道家
日本舞踊家
歌手

〈平成6年度〉

文化賞
文化功労賞

清水 達三
坂田 泰一
森川 隆之
和歌山市吹奏楽団

日本画家
版画家
作曲家

〈平成7年度〉

文化賞
文化功労賞

池田 貢 (式守伊之助)
デイビット・ハリソン・アーナー
井上 務 (木州)
小川加代子 (華瓣)

伝統文化 (立行司)
国際交流
書道家
水墨画家

〈平成8年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

津本 寅吉 (陽)
藺田 香融
原 博子 (玉置 博子)

作家
文学博士
ピアニスト

〈平成9年度〉

文化賞
文化功労賞

島村 安彦
有井 新平 (潭洲)
岡田 昭子 (杉谷 昭子)
岡崎団七踊保存会

写真家
吟詠家
ピアニスト
無形民俗文化財

〈平成10年度〉

文化賞
文化功労賞

小林 慶三
児嶋 義一
西本 正治
木ノ本の獅子舞保存会
清水加代子（香予子）

能楽師（観世流）
洋画家
郷土文化財研究家
無形民俗文化財
声楽家（シャンソンヴォーカル）

〈平成11年度〉

文化賞
文化功労賞

山本 恵子（真舟）
宮村 泰彦
西村 歌子（萌雲）
岩倉流泳法保存会
青木 進

書道家
洋画家
華道家
無形民俗文化財
作曲家

〈平成12年度〉

文化賞
文化功労賞

澤 和樹
宇治田豊子（竹垣みとよ）
まつい のりこ
木下 伸市
黒潮・躍虎太鼓保存会

ヴァイオリニスト
新舞踊家
絵本・紙芝居作家
津軽三味線奏者
和太鼓

〈平成13年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

岡田 昭子（杉谷 昭子）
松井 彬
田中 博行（S A B U）

ピアニスト
能楽師（喜多流）
映画監督・俳優

〈平成14年度〉

文化賞
文化功労賞

小池 洋一
久馬 規正
小川加代子（華瓣）
岡谷かおり
和歌祭保存会

地理学者
茶道家
水墨画家
作曲家・ピアニスト
郷土文化

〈平成15年度〉

文化賞
文化功労賞

藺田 香融
藤戸 輝一
仁科 實
岩城 久子
示現会和歌山支部

歴史学者
写真家
水彩画作家
日本画家
洋画団体

〈平成16年度〉

文化賞
文化功労賞

高野 澄子
岩橋 延直
中谷 幸
宮崎 幸子
和歌山市交響楽団

創作刺繍作家
歯科医師（文化団体代表）
七宝作家
洋画家
オーケストラ

〈平成17年度〉

文化賞
文化功労賞

児嶋 義一
辻 賀代子 (つじ加代子)
名手 隆子 (朱舟)
西島 麻子
とらふす少年少女合唱団

洋画家
俳人・エッセイスト
書道家
作編曲家・ピアニスト
合唱

〈平成18年度〉

文化賞
文化功労賞

伊藤 孝文
リーランド・R・ラトレル
坪井 章訓 (澁洲)
西 陽子
木國文化財協会

郷土文学研究家
国際交流
吟詠家
箏奏者
郷土文化

〈平成19年度〉

文化賞
文化功労賞

亀 勝人 (忠男)
勝本 奄子 (翠芳)
新井 貞子
宮下 直子
和歌山雅楽会

写真家
書道家
マリンバ奏者
ピアニスト
雅楽

〈平成20年度〉

文化賞
文化功労賞

松井 彬
坂田 稔
細島 清一 (静峰)
西中 千人
劇団ZERO

能楽師 (喜多流)
写真家
書道家
ガラス造形作家
劇団

〈平成21年度〉

文化賞
文化功労賞

三尾 功 (八朔)
駒井 則彦
斉藤 言子
徳田 直季
わかやま絵本の会

近世地方史研究家
医学博士 (文化団体代表)
声楽家
写真家
郷土絵本発行

〈平成22年度〉

文化賞
文化功労賞

岡田 脩 (脩克)
倉田 純三
由木 毅
山本 通広 (桂 枝曾丸)
演劇集団和歌山

華道家
洋画家
写真家
落語家
劇団

〈平成23年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

森川 隆之
池下 章裕
村田 千佳
南葵史談会

作曲家
CGイラストレーター
ピアニスト
郷土史研究

〈平成24年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

及川 眠子
一般社団法人和歌山青年会議所
土井 久幸
水軒の浜に松を植える会

作詞家
地域・文化活動
洋画家
文化財保護活動

〈平成25年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

三浦 圭子（啓子）
神保 和彦
加藤佐喜子（芳榮）
岡本 玲
NPO紀州お祭りプロジェクト

グラス造形作家
歌手・歌謡指導者
吟詠家
女優
地域・文化交流

〈平成26年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

小川加代子（華瓣）
井谷 雅三（まさみち）
シルビア・グウォズ
岡田 芳和
特定非営利活動法人
和歌の浦万葉薪能の会

水墨画家
歌人
国際交流
華道家
能・狂言

〈平成27年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

岩橋 延直
味村 正弘
清水 由朗
上島 幸恵
和歌山ジャズプレーヤーズ協会
（WAJA）

文化活動・国際交流
調理師（フランス料理）
日本画家
声楽家
ジャズ音楽

〈平成28年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

名手 隆子（朱舟）
兵谷 晶子（杵屋 栄七珠）
森 久美子
北島 佳奈
孫市の会

書家
伝統文化（長唄）
フラメンコ舞踊家
ヴァイオリニスト
地域文化活動

〈平成29年度〉

文化賞
文化功労賞
文化奨励賞

尾崎 好昭（斎晃）
恩田 雅和
西 陽子
寺下真理子
トンガの鼻自然クラブ

版画家（木版画）
文学・芸能研究
箏曲家
ヴァイオリニスト
文化財保護活動

〈平成30年度〉

文化賞	安田 言子 (齊藤 言子)	声楽家
文化功労賞	小澤 悦子 (小澤 清湖)	書家
	多田 佳亓子	声楽家・演出家
文化奨励賞	中谷 政文	ピアニスト
	和歌山市語り部クラブ	郷土歴史案内

〈令和元年度〉

文化賞	杉原 治	合唱指揮者
文化功労賞	永廣 禎夫	日本文学研究
	木下 伸市 (木乃下 真市)	津軽三味線奏者
文化奨励賞	前田 和紀	映画プロデューサー
	玉津島保存会	文化財保護活動

〈令和2年度〉

文化賞	HYDE	音楽家
文化功労賞	志賀 啓二	伝統工芸
	ユズル・ジム・コジマ	国際交流
文化奨励賞	高田 友紀子 (たかだ ゆき子)	児童文学作家
	山東まちづくり会	文化活動

〈令和3年度〉

文化賞	宮本 勝浩	経済学者
文化功労賞	森本 光子	地域文化活動家
	金子 達雄	化学者
文化奨励賞	宮井 愛子	ピアニスト
	いきいきシニアわかやま	地域福祉文化活動

〈令和4年度〉

文化賞	小山 譽城	歴史学者
文化功労賞	有吉 玉青	作家
	岡崎 由美子	洋画家
文化奨励賞	木ノ下 裕一	補綴家、ドラマトウルク
	和歌山フラメンコ協会	洋舞

和歌山市歌

Lento maestosamente

佐藤 春夫 作詞
山田 耕筈 作曲

こ れ な ん か い の し ず め ぞ と ー な
み よ き の か わ の か わ ぐ ち に ー み
あ に ば い え ん を ほ こ ら ん や ー ふ

ん りゅう こ う が こ こ ー ー ろ ざ し ー ひ
ん しゅう た ち て ほ う ー ー け ん の ー ゆ
う こう ゆ か し こ の ー ー あ た り ー た

そ め し し ろ は ふ り に し ー を ー じよ
め ふ き は ら は い あ ら た よ ー の ー と
づ な き わ た る わ か の う ー ら ー こ

う か の い き ー ぞ あ ら た な る ー ほ
し に さ ん ぎよ ー ー う お こ り た り ー ほ
う や の や ま ー も ち か く し て ー ほ

し ー う つ り ー も の か わ る と ー も ー と
し ー う つ り ー も の か わ る と ー も ー と
し ー う つ り ー も の か わ る と ー も ー と

こ わ か の ま ち わ ー か や ま ー し ー
こ わ か の ま ま ち わ ー か や ま ー し ー
こ わ か の ま ま ち わ ー か や ま ー し ー

和歌山市市歌

一、これ南海の鎮めぞと
南龍公が志

潜めし城は旧りにしを
城下の意気ぞ新なる

星移り物変るとも
常若の市和歌山市

二、見よ紀の川の川口に
民衆起ちて封建の

夢吹き払い新時代の
都市に産業興りたり

星移り物変るとも
常若の市和歌山市

三、豈煤煙を誇らんや
風光ゆかしこの辺り

鶴鳴き渡る和歌の浦
高野の山も近くして

星移り物変るとも
常若の市和歌山市